

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられた皆様へ

当院では下記の臨床研究に用いるため、患者さんの試料・情報を利用させていただいておりますので、お知らせいたします。

研究課題名： StanfordA 型大動脈解離に対する迅速手術群と遅延手術群の成績比較-
コロナ禍における検討

研究の目的

急性大動脈解離は大動脈緊急疾患で、特に偽腔開存型の Stanford A 型の大動脈解離は国内ガイドラインにおいて緊急手術が強く推奨される(Class I B)致死的疾患で、一般的に来院直後に緊急手術が考慮されます。しかしながら、特に、緊急手術に必要な輸血製剤がすぐに確保できない状況をしばしば経験します。血小板製剤は緊急時に必要量を入手できないことがあります。そのような状況下において、輸血を確保しないまま手術を行うべきか、輸血を確保するために手術を遅らせるべきかはエビデンスが確立されていません。本研究では、当院の大動脈解離手術症例のうち、来院から 12 時間以内に手術を行った症例と 12 時間以降に手術を行った症例の成績を比較検討し、手術開始が遅れたことが経過に与える影響を明らかにします。

研究実施期間： 2022 年 3 月 31 日 ～ 2023 年 3 月 31 日
(倫理委員会承認日)

対象となる方： 2020 年 1 月 1 日から 2022 年 1 月 31 日の期間内に弘前大学医学部附属病院で急性大動脈解離に対して手術が施行された症例を対象とします。

利用させていただきたい試料・情報について

(他機関に提供する場合、提供先機関の名称及び当該機関の研究責任者氏名含む)

当院のカルテに記録されている情報のうち、周術期情報について、標記研究課題実施のために利用します。

具体的には、対象となる急性大動脈解離手術症例を発症から 12 時間以内に手術を行った群と、12 時間以降に手術を行った群に分け、患者背景、術前臓器虚血や心タンポナーデの有無、大動脈弁逆流の程度、術式や手術時間、輸血量や挿管期間など周術期情報を、電子カルテ情報を閲覧して比較検討します。

なお、利用に当たっては氏名、住所、電話番号、患者番号等個人を特定できる情報を削除し、本研究のための固有の番号を付して(これを匿名化といいます)、行います。

研究成果については、学会発表や論文投稿等の方法で公表されますが、その内容から対象者個人が特定される事はありません。研究から得られた個別の結果については原則としてお答えしませんが、希望される方は下記連絡先までご連絡ください。

本研究課題について、より詳細な内容をお知りになりたい場合や、試料・情報の利用に同

意いただけない患者さん／その代理人の方は、以下の連絡先までご連絡ください。

研究への利用に同意いただけない場合、当該患者さんの試料・情報については対象から除外します。ただし、連絡いただいた時点で既に研究成果公表済の場合は、該当者のデータのみを削除する等の対応は出来かねますので、ご了承ください。

本件連絡先	呼吸器外科・心臓血管外科・小渡亮介 geka1@hirosaki-u.ac.jp
--------------	--